

# LifeKeeper for Linux v9.1.0

## テクニカルアップデートインフォメーション

---



## 目次

- [1.はじめに](#)
- [2.LifeKeeper for Linux v9.1.0の新機能・機能変更](#)
- [3.LifeKeeper for Linux v9.1.0の新規サポートOS・ソフトウェア](#)
- [4.重要な製品の改修](#)
- [5.お問い合わせ](#)
- [6.免責事項](#)
- [7.著作権](#)

## 1. はじめに

本文書ではLifeKeeper for Linux v9.1.0 (SIOS Protection Suite for Linux v9.1.0 / SPS v9.1.0) での新機能や機能変更、また、重要なバグ修正に関する概要をまとめたものです。それらに関する詳細な情報につきましては、リリースノートやオンラインマニュアルをご確認いただくか、ご契約の製品サポートにお問い合わせください。

## 2. LifeKeeper for Linux v9.1.0の新機能・機能変更

[Core]

- Quick Service Protection (QSP)  
LifeKeeper for Linuxの新しい機能として、OSに組み込まれているサービス名を指定するだけで、対象のサービスを保護する仕組みを実装しました。ARKが用意されていないサービスを保護するには、従来の製品ではユーザーにてHA用のスクリプトを記述し、GenericApplicationを用いて冗長化する必要がありましたが、QSPを使えばスクリプトを用意する必要はありません。

※ QSPはLifeKeeper用ARKが用意されているサービスや、サイオステクノロジーが専用のGenericARK用スクリプトを提供しているサービスまたはアプリケーションを保護することはできません。

- LifeKeeper API for Monitoring  
HAクラスタ(またはSSP単体)を構成する各ノード上で、LifeKeeperそのものと、保護対象リソースのステータスを報告する監視用のAPIを実装いたしました。本APIは単体で利用いただくものではありませんが、運用監視ツールなどと連携することで、クラスタ稼働状況を運用監視ツール上で一括して確認することが可能となります。

また、本APIの利用例としてZabbix用のサンプルモジュールを配布しております。APIを通じてどのような情報を入手できるのか、是非お試しください。なおサンプルモジュールはLifeKeeper製品の一部ではないため、サポート対象とならない点にご注意ください。

[ARK]

- HDLM Recovery Kit  
Red Hat Enterprise Linux 7をサポートしました。

※ RedHat Enterprise Linux 7.0以降でHDLM RecoveryKitを使用する場合、  
/etc/default/LifeKeeper内に以下の設定を追加する必要があります。  
HDLM\_DLMMGR=dlmmgr\_exe

- SPS Recovery Kit  
Red Hat Enterprise Linux 7をサポートしました。

## 3. LifeKeeper for Linux v9.1.0の新規サポートOS・ソフトウェア

LifeKeeper for Linux v9.1.0においては、新規にサポートされたOS、ソフトウェアはありません。

## 4. 重要な製品の改修

v9.1.0で行われた製品の修正の中で重要と思われる修正についてピックアップします。

[DMMP ARK]

- sdデバイス情報をsgデバイス情報に変換する際にキャッシュを持たない構造としました。

[HDLM ARK]

- sdデバイス情報をsgデバイス情報に変換する際にキャッシュを持たない構造としました。
- systemd対応を行いました。

[SPS ARK]

- sdデバイス情報をsgデバイス情報に変換する際にキャッシュを持たない構造としました。
- systemd対応を行いました。

[PowerPath ARK]

- sdデバイス情報をsgデバイス情報に変換する際にキャッシュを持たない構造としました。

## 5. お問い合わせ

本ドキュメントの記載内容について、疑問点等がある場合は弊社サポート窓口までお問い合わせください。なお、お問い合わせの一次窓口が弊社ではない場合があります。サポート証書にてサポート窓口を確認のうえ、適切な窓口にお問い合わせください。

<http://www.sios.com/products/bcp/lkdk/contact/>

## 6. 免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証をするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

## 7. 著作権

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されます。またコンテンツの改変、削除についても一切認められません。本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。